

口腔機能を優先した根治不能な下顎平滑筋肉腫の切除症例の経験

田中 志保¹⁾ 喜多 涼介¹⁾ 青柳 直子²⁾
大谷 泰志¹⁾ 瀬戸 美夏¹⁾ 喜久田利弘¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部医学科歯科口腔外科学講座

²⁾ 白十字病院歯科口腔外科

要旨：口腔悪性腫瘍に対する外科的治療は一般的には根治を目指して行うため、根治不可能と判断された症例については外科的治療を避け、疼痛緩和を目的とした終末期医療を選択される場合がほとんどである。

しかし、口腔腫瘍により著しく quality of life（以下 QOL）が損なわれている症例においては、外科的治療によってもたらされる術後の QOL 向上は、生存期間の延長以上に意義を持つと考えられる。

今回、私たちは多発性骨髄腫と平滑筋肉腫を重複する予後不良な患者に対して、下顎平滑筋肉腫切除術を施行した。術後の QOL は一定期間改善し、根治の望めない症例に対する外科的治療が有益であったと考えられたため、文献的考察を含めて報告する。

キーワード：平滑筋肉腫、終末期医療、quality of life (QOL)、外科的治療